

図書館 だより

泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつばやき

桜えほん展示してます♪図書館(室)にも素敵な春が来ました!
 ホタル



新着・お薦め図書

泗水図書館

妄想科学小説 赤瀬川源平 著
 サーカスナイト よしもとばなな 著
 不知火おとめ 石牟礼道子 著
 火の杯 山本周五郎 著
 実家の片づけ活かし方 日経ホームビルダー 編著
 寺嫁ごはん 麻生伶菜 著
 地雷をふんだソウ 藤原幸一 著
 仙人のおしえ かないだえつこ 絵

中央公民館

孤独死のリアル 結城康博 著
 1日5分笑って長生き100の習慣 周東 寛 著
 夜だけ「ふんどし」温活法 日本ふんどし協会 著
 連写 今野 敏 著
 醒めながら見る夢 江 仁成 著
 りんごの花がさいていた 森山 京 作
 みんなのほねほね かしわらあきお さく

七城公民館図書室

透明カメレオン 道尾秀介 著
 我が心の底の光 貫井徳郎 著
 あなくまアパート あんびるやすこ 作
 真夜中のディズニーで考えた動く幸せ 鎌田 洋 著

旭志公民館図書室

峠しぐれ 葉室 麟 著
 絵本の森でうまれたバグ 川角草子 著
 へいわってすてきだね 安里有生 詩
 マララ 教育のために立ち上がり、
 世界を変えた少女 マララ・ユスフザイ 著

「おおきなクマさんとちいさなヤマネくん もりいちばんのおともだち」

ふくざわゆみこ さく



森で一番大きなクマさんは、
 小さなものが好きでした。森で
 一番小さなヤマネくんは、大き
 なものが好きでした。「ヤマネ
 くん小さくてかわいいなあ」
 「クマさん大きくってかっこ
 いいなあ」二人は出会ってすぐ
 に、森で一番の仲良しになりました。

季節ごとに、大きくて怖がりのクマさんと、小さくて無鉄砲なヤマネくん、二人を中心に森で起こる騒動や泣き笑い。ここぞのときの思い切りと譲り合い、ほんわかさせられるラスト。七城の子どもたちも大好きなお話です。私のお気に入り、フルーツ飾りの3段デコレーションケーキを、ヤマネくんがトンネルを掘りながら完食するシーン。

4冊シリーズが欠けていたのでリクエストしたら、七城公民館図書室ではすぐにそろえてくださいました。

岡本由紀さん (清水区)



毎回楽しいお話で子どもたちも大喜び♪



▼七城公民館図書室

・第3土曜日 午後2時～ おはなし会

▼旭志公民館図書室

・第3土曜日 午後1時30分～ おはなし会

目より情報

おはなし会にお越しください

各図書館(室)では、毎月おはなし会を行っています。皆さんの参加をお待ちしています。

▼泗水図書館

- ・第2・4土曜日 午前11時～
 泗水っ子童話会のおはなし会
- ・第4金曜日 午前11時～
 おはなしの部屋(赤ちゃんのおはなし会)

▼中央公民館図書室

- ・第1・5土曜日 午前10時30分～ 中央おはなし会
- ・第2・4土曜日 午前10時30分～ きくちおはなしのもり

万句の里俳句会 2月句会

冴返る月の光の痛きほど

宮本 雅子
 日輪にぐんぐん背伸び名草の芽
 林 まつ子
 豆撒や母の袖もつ小さき手
 緒方 朋子
 辛夷の芽空押し上げて光りけり
 松永 久子
 人声に咲き初む梅の二三輪
 中路 郁子

せせらぎ俳句会 2月例会

老いの死はひそか密やか春寒し

藤本 邦治
 孫からのホットな電話春近し
 寺本 和子
 それぞれに芽ぐみの色や庭の木々
 服部 静子
 留守猫の恋も出来ずに主待つ
 藤本アツ子
 春泥の靴を並べて足湯かな
 五丁 義昭

旭志文芸教室俳句の会2月詠草

温き指脈看る医師や山眠る
 芹川 蒼子
 ねんねこは筆筒に孫は成人す
 水谷 ミネ
 立ちのぼる濃き朝霧や寒の川
 芹川のり子

夜干しする嫁の気配や寒の内
 中尾ヨシコ

肥後狂句桜会 2月例会

はずかしさ ダイエットして肥えと
 窪田 明徳
 グニャグニャ 惚れたお人の言うが
 田中 孝幸
 まま 新製品の多過ぎる
 田中レイ子
 目移りして

踏ん張って 母子家庭とは言わせな
 高木 房恵
 いのさんねえ また担がれてきた旦那
 高倉 新米

肥後狂句水笑会 2月例会

若嫁ご 今は別れの早こつが
 御手洗三代
 低温注意 電気代とま言ううれん
 中島 五女
 不思議 別れとるのに子の出来た
 吉岡 三水
 立ち話し たいぎやどころで止めん
 平井 紅彩
 かな 飯の支度も忘れとる
 柏原 乗仏

七城短歌会 2月詠草

着ぶくれて来しぞ正解投函に木戸を
 高木 精

それぞれの手料理持ち寄り兄弟会話
 し花咲く時を忘れて 池田カツ子
 風立ちぬ午後なる背戸に出て来たり
 榎の実ポトポト落ちてはまるぶ
 嶋田 晴美

「ひやすじ」とふ池の鯉群れ寄り来た
 指差ししせば一つがしやぶる
 木下 陽子

短歌など作りて金になるのかと問え
 る友へは苦笑を返す
 緒方 正俊

「里」短歌会 2月詠草

せせらぎと春雨重ぬ菊池川われの心
 を洗い流れる
 松本 和子
 凍てる夜の星空眺めつつ 微睡めば屈
 託の思いはるか遠のく
 坂本 玲子

肩すくめ鴨の声聞き外にでれば春草
 はやも犬ふりの芽
 川口 敦子
 目を見張る壁面占めて力作の孫らの
 絵画色の溢れる
 梶原美智代
 川沿いに桜の苗木植えし後春の露雨
 江頭 桂子

高齢者大学文芸部 2月歌会

遠阿蘇と郷の鞍岳借景に冬枯れの
 集落淡日翳ろふ
 中川 愛子
 健やかに卒寿の坂を踏みしむる賜ふ
 ひと日一日は命
 山下 菊代
 頸椎の痛む病は治療法なし医者の言
 葉に独り頷く
 中原 光子

文芸 きくち

群れすき白き穂綿の川風に吹かれ
 て音す夕べさわさわわ 岩根 博恵
 健康の為にはタクシー使えぬと冬の
 陽背にひたすら歩く 山城 雅子

菊池短歌会 3月詠草

讚美歌を首をかしげて歌ひをる人の
 視線の先にあるものは何
 古賀 勝士
 陽だまりにうたたねすれば夢ごち
 電話鳴るだけ鳴りて止みたり
 中川 愛子
 籠り居の窓に差しくる夕陽さへきら
 さらとしてひかる如月
 中原ちえ子
 東雲の大き朝やけ遠阿蘇は雪のいた
 だき幸便待たむ
 怒湯湯健容
 奪ひあひ殺し憎しみ人間は青き地球
 を血で汚さんか
 林 まつ子